

藤 沢

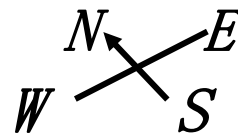
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2024年4月1日

第359号

主
な
記
事

- ・横須賀石炭火発差し止め裁判で控訴棄却
- ・核兵器禁止条約に関し一歩前進
- ・能登半島地震のメカニズム
- ・川崎ぜん息と大気測定・野鳥とのつきあい方

<http://econet2015.sakura.ne.jp>事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / FAX 0466-87-4922

地球のミライ、藤沢市のミライを語ろう

SDGs / 気候非常事態宣言が出されて久しい、気候危機の被害・影響が現実には起きている。このまま、世界で起きている戦争の危機が続けばエネルギーや食糧の自給が益々重要になる。しかしこれらは余りに大きすぎて、2月の市長選挙や多くの選挙では目先のことが中心で、長期的な課題は有権者の関心が低いと判断され争点となり難い。

実際、気候危機アクションのスタンディングで気候危機を訴えても、チラシの受け取りは少なく反応は鈍いと感じている。一方、気候危機アクション藤沢 HP で「気候時計」のアクセス数は3/23現在、9,000越。3月23日(土) 20:30~21:30のEARTH HOUR(世界中で同じ日・同じ時刻に消灯する)の取り組みで、東京都では、東京駅・スカイツリー・東京タワーなど消灯。横浜市でも行われた。藤沢でもこの時間に自宅で消灯するEARTH HOUR in Fujisawaへの参加をネットで呼びかけたところ2,700名が「いいね!」をしてくれた。

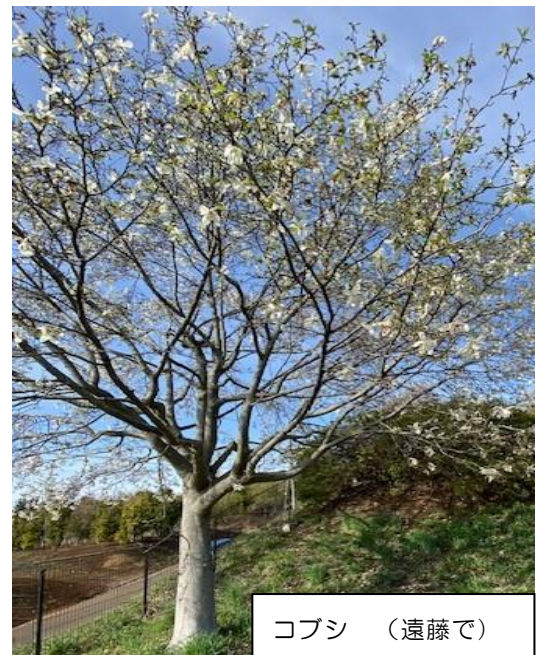
エコネットニュース3月号の少子高齢化問題で、藤沢市のミライについて人口ピラミッドについて釣り鐘型からの脱却を訴えた。また、能登半島地震などから学ぶべき藤沢市の災害対策は? さらに、市民の暮らしと命を守る「安全保障」ではエネルギーや食糧を輸入に頼っていて良いのか? 地域から自給を高める取り組み(エネルギーと食糧の地産地消)はできないのか。

2050年ゼロカーボン:脱炭素都市藤沢に向けた街づくりはこれらとどう繋がるのか? ゼロカーボンをめざすということは、単なる環境問題対策ではなくエネルギーを化石燃料から脱却し産業構造を転換することで、経済・食糧生産・交通などあらゆる分野にわたる総合的転換が起きることになる。

脱炭素社会は、技術革新(イノベーション)を伴わなければ実現しない。世界をリードできるのは日本発の技術ペロブスカイト太陽光発電(ヨウ素資源は日本が世界一)が最有力である。次は水素エネルギーによりゼロカーボンの実現であろう。その脱炭素社会において、原発に依存することの是非は、3.11や能登半島地震の経験から明らかである。

エコネットニュース紙上で読者のみなさんから様々な意見が寄せられることを期待している。

(編集部)



コブシ (遠藤で)

横須賀石炭火力差止裁判で控訴棄却

2024年2月22日、横須賀石炭火力控訴審（東京高裁）は開廷直後、「本件控訴をいずれも棄却する」とし、わずか10秒ほどで閉廷しました。

この裁判は、石炭火力発電所の建設が、簡略化したアセスメントで国が許可したのは違法だとして、通知の取り消しを求めたものでした。昨年1月に東京地裁で原告敗訴となり控訴していたもので、再び原告の訴えをしりぞけました。原告団と弁護団は、即日連名で声明を発表し判決の不当性を訴えています。

判決の特徴

判決文は IPCC 第五次報告書と1.5℃特別報告書を引用し、気候変動が人々にさまざまな被害をもたらす

深刻な事態であると事実認定し、地裁判決よりも前向きな判断を示しています。

しかし、地球温暖化被害については、「本件新設発電所の稼働による二酸化炭素

の排出が地球温暖化に寄与するとしても、同排出に起因する事象による被害のおそれを本件新設発電所周辺の居住者等の特別の範囲の者との関係で特に増大させるものとは認められない」とし、控訴人・原告適格を否定し、これが判決理由となっています。

最高裁へ上告

石炭火力発電所は現在、予定の工期を2ヶ月も前倒して昨年12月に第2号機も操業を開始しました。この訴訟を注目しての表れであり、同時にこの判決が国の温暖化対策とエネルギー政策に直結するからです。石炭火力発電に固執する日本は国際的に批判されています。原告団は、「ここでやめたら、自分たちは諦めたのかということになってしまう。最高裁判所に最後まで判断を仰ぎたい。」と上告する意向です。

詳しくはこちらを→

<https://yokosukaclimatecase.jp/news/nishin-hanketsu/>
(Y)

野鳥との付き合い方（続）

1. 都会に適応した野鳥たち

夏から冬の夕方、ムクドリが駅近の街路樹に群れる光景は珍しくありません。「ねぐら入り」というそうですが数千羽が1本の街路樹に集まるのですから、周辺の方は迷惑なことでしょう。

ムクドリに限らず、都会に適応した野鳥は少なくありません。時にカラスはゴミをまき散らし、海岸のトビは行楽客の弁当を奪いにきます。そんな迷惑な鳥たちも、人間が勝手に自然を変えたせいで仕方なく生き方を変え

ただけと主張することでしょう。身近なところに野鳥がいることは理由もなくうれしいのですが、鳥と付き合い方には人の方で工夫が必要なようです。

2. 野鳥との出会いを増やす

3月はじめ近くの公園で「ぴゅー・ぴゅー」という鳴き声が聞こえました。双眼鏡で探しても姿は見えません。その後、別の公園の林にキツツキの仲間アオゲラを見つけました。それは樹上で幹をつつく「ドラミング」の



道路の人工物を巣に利用するムクドリ



樹上でドラミングするアオゲラ

音が聞こえたからです。さらに「ぴゅー」の鳴き声です。これで、あの声の主はアオゲラとわかりました。鳴き声がわかると耳が慣れてきたせいでしょうか、とたんに方々でアオゲラの鳴き声がします。野鳥を見つけるには鳴き声の聞き分けが重要でした。

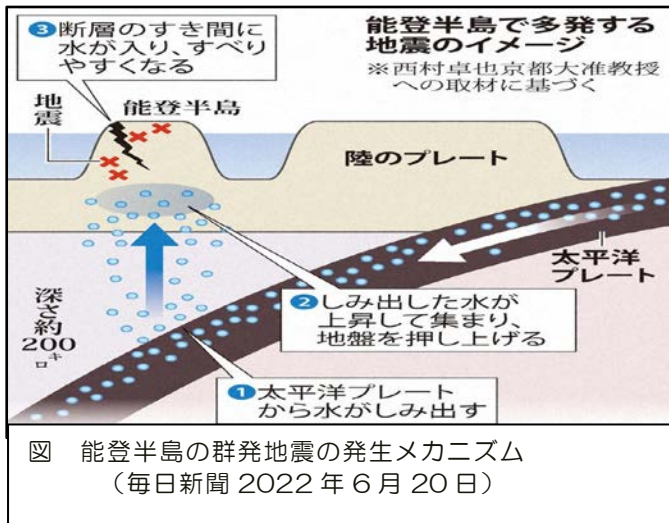
もちろん普段の「地鳴き」と繁殖期の「さえずり」はまったく別ですので両方を覚える必要がありました。でもこの声の主はどんな鳥だろうと探すのはとても楽しいことです。どうぞ、ご堪能あれ。

(菅谷芳雄)

能登半島地震のメカニズムの解明の現段階

日本科学者会議神奈川支部は2月24日に研究交流会を開催しましたが、その内、能登半島地震の発生メカニズムに関する講演がありましたので紹介します。

本年1月1日に石川県能登地方で発生した震度7を観測した地震は、大きな被害をもたらしました。特に能登半島突端の珠洲市においては海岸が4メートルも隆起するなどこの地震の激しさを目の当たりにして、発生メカニズムの解明が待たれます。



講演者は、浜田盛久さん（海洋開発研究機構）で火山の研究者です。能登半島では2020年から群発地震が起きており、観測された地震波の解析が進められました。その結果、地層中に流体が存在し、その流体が動くことが群発地震の原因であることが分かってきました。1月1日の能登半島地震もこの群発地震と同じで流体の正体の探索が求められました。しかし流体の正体とその起源をめぐっては研究者間で見解が一致していないそうです。過去の学説では、●流体の正体はマグマ中のガス成分に由来する火山性流体とされていましたがこの説の難点はこの地域に火山がないこと、火山はマントルが上昇する地点にできるので、この能登半島周辺はプレートが沈み込む場所だったので矛盾していました。

これに対して最近、新聞などで紹介されている説は、流体が●沈み込んだ太平洋プレートからしみ出てきた水が、上昇して地盤を押し上げたというものですこれに対して演者は●約2500万年前から約1500万年前の日本海拡大期に形成された断層中に海水が取り込まれたものが起源と説明しました。(菅谷芳雄)

川崎ぜんそくと大気測定

川崎市では今年2024年3月31日をもって成人および小児ぜん息患者医療費助成制度が経過措置をとりながら廃止されることになりました。理由は他のアレルギー患者との公平性の観点からとの事です。ぜん息は減っているのでしょうか。

京浜工業地帯の中心である川崎市は戦前戦後から大気汚染によるぜん息などの健康被害が続出、川崎公害と呼ばれました。

1980年代から90年代にかけて川崎公害訴訟があり、原告が勝訴して医療費が無料となるなどしました。その頃から横浜三浦藤沢小田原などでもぜん息が増え、大気汚染が問題になりました。

藤沢の空気を考える会が生まれ、市民自ら二酸化窒素(NO2)を測定して市に働きかける運動が始まり今日に至っています。

昨年6月の市内平均は0.058ppmで環境基準内でしたが、高いところもあります。

(藤沢の空気を考える会 青柳)

2023年6月測定結果						
	件数	道路沿	非道路沿	合計	平均PPM	
片瀬	2	0.1	2	0.13	4	0.11
鵜沼	1	0.15	7	0.076	8	0.075
辻堂	1	0.05	7	0.079	8	0.075
村岡	2	0.045	5	0.036	7	0.039
藤沢	16	0.061	3	0.066	19	0.061
明治	6	0.052	3	0.047	9	0.05
善行	8	0.061	2	0.021	10	0.056
湘南大庭	11	0.1	2	0.045	13	0.093
六会	2	0.03	10	0.029	12	0.029
湘南台	7	0.043	5	0.046	12	0.044
遠藤	0	---	8	0.54	8	0.54
長後	1	0.01	1	0.03	2	0.02
御所見	4	0.021	1	0.002	5	0.018
藤沢市平均	61	0.061	56	0.035	117	0.058
鎌倉	0	---	8	0.085	8	0.085
(環境基準0.04~0.06ppm以下)						
ワースト3	1	大庭トンネル	0.20	ppm		
	2	片瀬5丁目	0.15	ppm		
	3	鵜沼海岸6丁	0.15	ppm		

核兵器禁止条約に関し一歩前進

2024年3月27日、藤沢市議会は核兵器禁止条約で積極的な役割を果たすことを日本政府に求める意見書案を採択した。

この意見書は、市内在住の埜下雅美(たおした まさみ)さんが藤沢市に提出した陳情をもとにしている。

埜下さんは小学校3年生のときに疎開していた広島で被爆。多くの人たちが何の手当てもないまま埜下さんの目の前で亡くなっていったという。

その経験をもとに埜下さんが描いた朗読劇が昨年12月エコストアパパラギ2階ホールで上演された。この朗読劇を企画した仲間とともに核兵器のない世界をめざし、藤沢市に今回の陳情を提出する流れとなった。

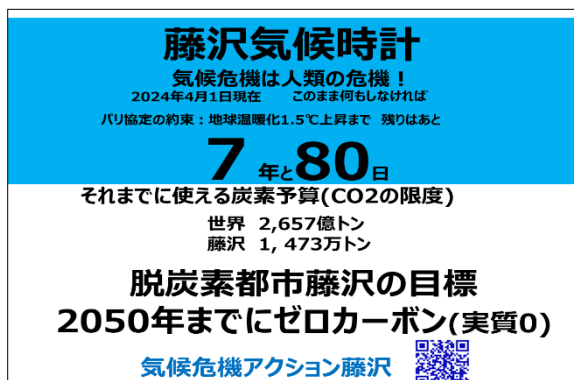
核兵器禁止条約では、核兵器は国際人道法違反であるとし、開発・実験・使用・使用の威嚇を禁止している。核保有国も参加でき、核兵器をなくすまでの手順にも言及した画期的なもので、国際条約としては初めて「ヒバクシャ」という言葉が用いられている。核兵器を絶対悪とする同条約は2017年に国連で採択され、21年に発効した。条約の前文だけでも是非読んでいただきたい。人としてこの世界にどう向き合うべきかが記されている。

今回の陳情に際し、多くの方々が応援してください。改めて御礼申し上げたい。

同様の陳情がもうひとつ市議会に提出され、同時に採択されたが、平和を願う藤沢市民の本気が感じられ、勇気が湧いてくる。

さあ、ここからが本番！埜下さんを中心とした新たな活動を現在企画。中。乞うご期待！

(藤岡みどり)



ECONET INFORMATION

▲藤沢探鳥クラブ探鳥会

藤沢駅→柏尾川沿い→川名→新林公園 徒歩
 4月7日(日)8時集合 藤沢駅南口名店ビル前
 地下道入り口付近 雨天中止

持物 双眼鏡 筆記用具 雨具 参加費無料

主催 藤沢探鳥クラブ 連絡先 ☎0466-25-1817

▲アースデイ東京 2024

4月13日(土)・14日(日)10:00-19:00

代々木公園で集います
 コンサート ステージ マーケットなどあり
 主催：アースデイ東京 2024 実行委員会

▲『いのちの林檎』上映会

化学物質過敏症を考える

4月21日(日)14:00-

4月22日(月)10:00-

場所 エコストアパパラギ2階

中学生以上 1200円 小学生 800円

主催/申込み 0466-50-0117

・エコストアパパラギ

▲戦争の加害パネル展

4月27日(土)～5月5日(日)10時～7時

かながわ県民センター1階展示室 無料

(横浜駅から徒歩5分)

主催/記憶の継承を進める神奈川の会

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

◆事務局会議 4月6日(土)10:00～

六会公民館

《編集後記》今年の入学式は桜に恵まれたがお天気が気まぐれだ。小林製菓の「紅こうじ」配合サプリから青カビ由来の「ブベルル酸」が検出され、腎障害を多数起こしている。このサプリは、機能性表示食品で国の審査なしで企業の責任で表示、消費庁に届ける。一方特定保健用食品(トクホ)は国の審査を受ける。サプリ盛んな世相には不安を覚える。主食副食をしっかりと食べ、サプリは補助にすぎない事を忘れずに。

(A)